



 木徳神糧株式会社

第67期

平成26年1月1日▶
平成26年12月31日

株主通信



世界の主な穀物のうち
お米を主食としているのは約何億人？

- ① 約5億人 ② 約10億人 ③ 約20億人

答えは裏表紙をご覧ください



事業の立て直し、次なる成長へ向け、
手応えを感じた1年となりました。
中期経営計画2年目も、
事業モデルの変革に邁進していきます。

代表取締役社長 平山 淳

Q 2014年12月期の業績の振り返りと
ご評価をお聞かせください。

A 主力の米穀事業での取り組みが奏功し、
全社の利益を大きく牽引しました。

2014年12月期は、主力の米穀事業において、中食や外食等向けの販売数量が堅調で、精米数量が前年同期を上回る水準で推移しました。一方で、家庭用精米の販売が苦戦したほか、需給緩和で卸業者向けの玄米の販売数量およびミニマム・アクセスによる外国産米の取扱量が減少しました。また、平成25年産米に続き、平成26

年産米も豊作となり、生産および供給量が需要を大きく上回ったことから、平成26年産米の販売価格は予想以上に大幅に下落しました。これらを要因に、連結売上高は前年同期比8.2%減となる1,060億99百万円となりました。

利益面は、米穀事業の利益拡大がグループ全体の業績を牽引し、営業利益は11億31百万円と大幅回復を果たしました。提案営業の強化による精米販売の拡大、仕入手法の多様化、在庫管理の徹底などが利益増に寄与したと認識しています。特に、豊作を背景に、市場の動きにあ

売上高

106,099百万円
(前年同期比 8.2%減)

営業利益

1,131百万円
(前年同期は912百万円の営業損失)

当期
純利益

683百万円
(前年同期は546百万円の当期純損失)

わせ、事前契約(複数年・収穫前等)と期別相対契約を併用した米穀の仕入方法の変更が奏功しました。

飼料事業は、脱脂糠やふすまといった糟糠類を中心とした国内産配合飼料原料の販売は堅調に推移しましたが、円安の影響を受け、牧草や穀類等の輸入飼料は高騰し、販売数量が減少したことで、減収減益となりました。

食品事業では、付加価値商品のたんぱく質調整米、鶏卵事業では、特殊卵が好調に推移しましたが、両部門とも事業全体としては、売上高・利益ともにマイナス成長となりました。

Q 中期経営計画2年目となる2015年12月期に注力する取り組みについてお聞かせください。

A 海外市場の拡大をにらみ、ベトナム事業に注力するとともに米関連の新ビジネスにも着手していきます。

事業の立て直しを最大のテーマにスタートした中期3カ年計画の初年度は、主力の米穀事業を中心に、手応えのある1年とすることができました。2015年12月期もこの流れを続けていきたいと考えています。

今期は特に、米穀事業におけるベトナム事業

に力を入れていく考えです。昨年2月に乾燥設備、粉摺工場が完成し、ベトナム事業は一気に拡大しました。今年2月には、乾燥設備の能力を3倍にする工事が完了し、3月のメインクロープより、高品質のジャポニカ米をさらに増産できる体制となります。年間1万トン超の精米出荷を目指します。

また、ベトナム北部のハノイでは、ベトナム産コシヒカリの栽培に着手し、第三国向け輸出拡大に向け、新たなバリエーションの品種としていきます。

こうして着実にベトナム事業の規模を拡大し、今後、米の消費大国となることが予想される中国に向け販売量を増やしなが、将来の日本米の輸出を視野に入れた準備も進めていきます。

また、香港市場にベトナム産ジャポニカ米を提供することも決まりました。シンガポール、マレーシアに続く市場として、香港にも「美味しい木徳神糧のジャポニカ米」の浸透・拡大を進めます。

さらに、将来を見据え、ベトナム国内の方々にジャポニカ米、日本米の味を知っていただき、ファンになっていただけるよう、ホーチミンでおにぎりショップを年内に開店する計画です。

トップインタビュー

国内では、引き続き、販売・仕入方法の多様化に取り組むほか、広域卸として新たに精米機能を確認する施策を講じていきます。

飼料事業は、配合飼料業界全体が厳しい状況にあり、業界再編も進みつつある中で、事業機会が拡大すると見込んでおり、今期は前年を超える実績を残せるのではないかと期待しています。また、農業政策により、平成27年産米から60万トン(平成26年産米実績18万トン)の飼料用米が生産される見通しです。この取り扱いにも対応していく予定です。

食品事業では、台湾・中国への販売向けに、たんぱく質調整米「真粒米」の生産工場の建設を台湾グリーン・バイオパーク(屏東県)を進めており、年内には完成する見込みです。

また、重要課題に位置付けてきた鶏肉事業の立て直しについては、利益の出ているビジネスを残しながら、事業所の統廃合や、事業規模の縮小を実施していきます。前年も10月～12月では黒字に回復しており、今期は通期で黒字をめざしていきます。

また、2年前より始めたライスマルクのリメイクを進めるほか、米関連の新ビジネスも少しずつ拡大していきたいと考えています。

Q 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A 「米卸」から「ライスカンパニー」へ。木徳神糧の新しい飛躍にご期待ください。

2014年12月期は、おかげさまで計画を上回る業績となり、新たなる成長につながる手応えを感じられる1年となりました。2015年12月期も引き続き、この好調な流れを維持し、しっかりと利益を確保し、株主の皆様へ還元していきたいと考えています。

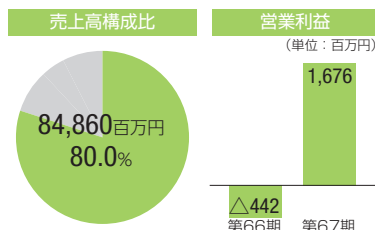
単なる「米卸」の存在から、新しい商品・新しい価値を作り、提案・提供し続ける「ライスカンパニー」へと発展を目指しながら、安定成長を目指すことのできる事業モデルへと変革を進めていきます。

株主の皆様への還元については、大幅な利益改善から期末配当を7円とし、年間配当10円へ増配させていただき、楽しみにしていたいただいている株主優待についても、より充実を図っていきます。

株主の皆様におかれましては、当社のさらなる発展にご期待いただくとともに、末永くご支援いただけますようよろしくお願い申し上げます。

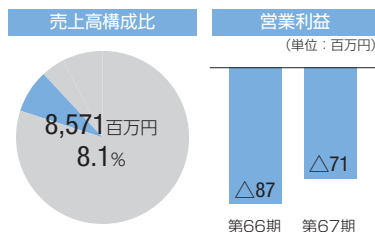
セグメント別営業概況

● 米穀事業



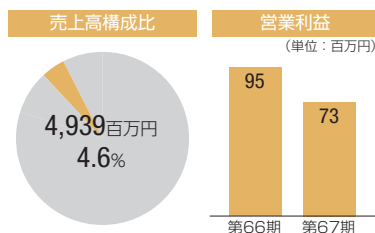
中食や外食等向けの業務用精米や第三国向け外国産米が好調も、平成26年産米の豊作により生産及び供給量が需要を大きく上回ったことから価格が予想以上に下落し、売上高は84,860百万円となりました。一方、精米販売の拡大、仕入手法の多様化、販売コストの削減、在庫管理の徹底に注力し、大きな成果が得られたため、営業利益は1,676百万円となりました。

● 食品事業



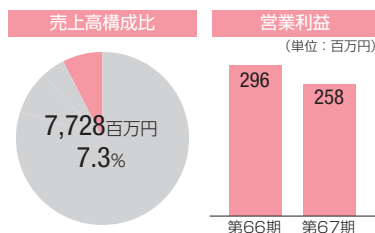
付加価値商品のたんぱく質調整米の販売が好調に推移するも、鶏肉を取り扱う食品子会社の業績不振、惣菜加工工場を閉鎖したこと等により、売上高は8,571百万円、営業損失は71百万円となりました。

● 鶏卵事業



需給逼迫により鶏卵相場が高値で推移しているなか、特殊卵の販売に注力し販売数量を伸ばしましたが、量販店における特売企画の減少により販売数量全体が大幅に減少したため、売上高は4,939百万円となりました。また、仕入価格が上昇しているなか、販売競争の激化により利益率が低下したため、営業利益は73百万円となりました。

● 飼料事業



配合飼料相場が高値で推移しているなか、糟糠類を中心とする配合飼料原料の販売が堅調に推移いたしました。また、牧草等輸入単味飼料の販売数量が減少したこと等により、売上高は7,728百万円となりました。また、需給環境の変化や急激な円安の影響等により輸入飼料原料の利益率が著しく低下したため、営業利益は258百万円となりました。

グループ会社紹介

日本の食文化を広める一助をベトナムから。
地元の農家とともに高品質の美味しい
お米作りに取り組んでいきます。

アンジメックス・キトク有限会社 取締役社長 大森 明



Q アンジメックス・キトク社は どのような会社ですか。

当社は、年間を通して温暖な気候で、メコン河の豊富な水と肥沃な大地に恵まれ、年間3回コメを栽培・収穫することができるベトナム・アンザン省で、1991年、**PICK UP 1** アンジメックス社(旧アンザン省輸出入公団)と木徳神糧の合併会社として設立されました。意欲のある優秀な農家と協力して、1996年よりジャポニカ米の契約栽培を開始、1999年には精米工場を建設し、ベトナムでの精米事業をスタートさせました。従来、農家が天日乾燥した籾を買付けていましたが、近年、工業化の進展により、若い労働力が都市に流れ、稲作現場の労働力不足から、当社の精米量も頭打ちの状況が続いてきました。そこで、昨年より自社 **PICK UP 2** 日本式乾燥機を稼働させ、農家の乾燥作業を軽減したところ、ジャポニカ米の契約栽培に参加する農家が急増し、品質も大幅に改善しました。現在は、アンザン省・ロンズエン市に本社と隣接する精米工場、トアイソン地区に乾燥工場、ホーチミンに支店を置き、主にジャポニカ米(短粒種)のほか、香り米(長粒種)も取り扱っています。

Q 今後の展開についてお聞かせください。

世界中で日本米の需要拡大が予想される中、木徳神糧グループのグローバル展開の最前線として、品質の安定したベトナム産ジャポニカ米の供給を大幅に増やしていくことが当社の役割です。この2月には、一層の生産増と品質改善を進め、安定した品質のジャポニカ米の供給体制を整えるため、乾燥設備を倍増させました。ベトナムでの販売のみならず、シンガポールやマレーシアへの輸出を積極的に進め、2014年には8,000トン、2015年には1万4,000トンに拡大し、中期的には長粒種、香り米等の扱ひも含め、ベトナム事業だけで精米販売3万トンを目指します。

また、上半期中にホーチミン市内でおにぎりショップを開店します。現在、ベトナムでは、日本食が大人気を博しており、ホーチミンだけでも約300店舗の和食店があります。2015年より独资で小売出店が可能となり、さらに出店が増えると見込まれることから、ベトナムで活動する日本の米屋として、ベトナムの皆様にご日本のお米の本当の美味しさに触れてもらう機会を提供していきたいと考えています。

PICK UP 1

アンジメックス・キトク社

現在の人員体制は、日本からの出向者4名、ベトナム社員75名の総勢79名。ベトナムは国民の平均年齢28歳と非常に若い国であり、当社社員も若くて優秀で、向学心に富み、積極的に仕事に取り組んでいます。

今後は、よりベトナム社員の研修・能力開発に力を入れ、日本からの出向者は減らす一方、優秀なベトナム社員に責任ある仕事を担ってもらいながら、地元へ根ざした事業成長を目指していきます。



PICK UP 2

生産量増加と品質向上を実現

ベトナムにおける刈り取った直後の粉の水分は約30%と言われており、そのまま粉を長期間放置すると、カビや細菌等の微生物の繁殖により品質が低下するため、水分を約15%まで乾燥する必要があります。

日本式乾燥機導入により農家から刈り取った直後の粉を買入れする事が可能となり、取扱量が拡大しました。

また、乾燥期間、乾燥ムラ、異臭等のリスクも軽減できた事で品質が向上しました。



連結財務データ

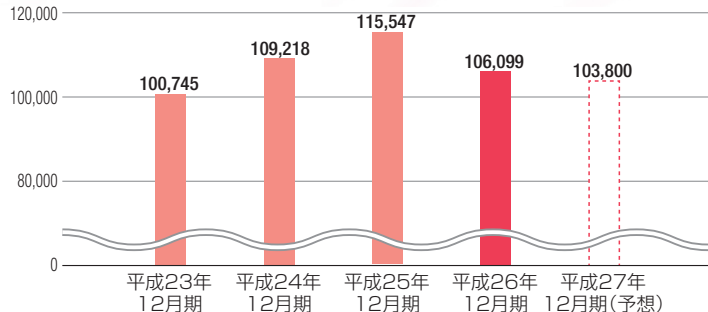
当社の最新情報、IR情報入手は
WEBサイトをご活用ください。

木徳神糧 IR最新情報

検索

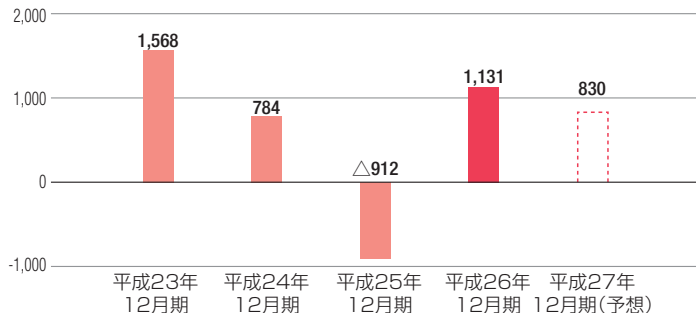
売上高

(単位：百万円)



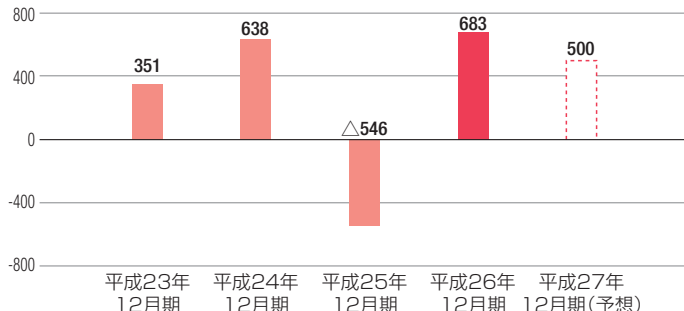
営業利益

(単位：百万円)



当期純利益

(単位：百万円)



当期のポイント

米穀事業において、玄米の販売数量及びミニマム・アクセスによる外国産米の取扱数量が減少しましたが、精米や第三国向け外国産米の数量は前年同期を上回る水準で推移しました。しかしながら、国産米販売価格が前年同期比大幅に下落したことから、売上高は、106,099百万円(前年同期比8.2%減)となりました。

主力の米穀事業においては提案営業の強化による精米販売の拡大、仕入手法の多様化、販売コストの削減、在庫管理の徹底に注力したことにより収益改善が大きく進展し、グループ全体の利益拡大に寄りました。その結果、営業利益は1,131百万円(前年同期は912百万円の営業損失)となりました。

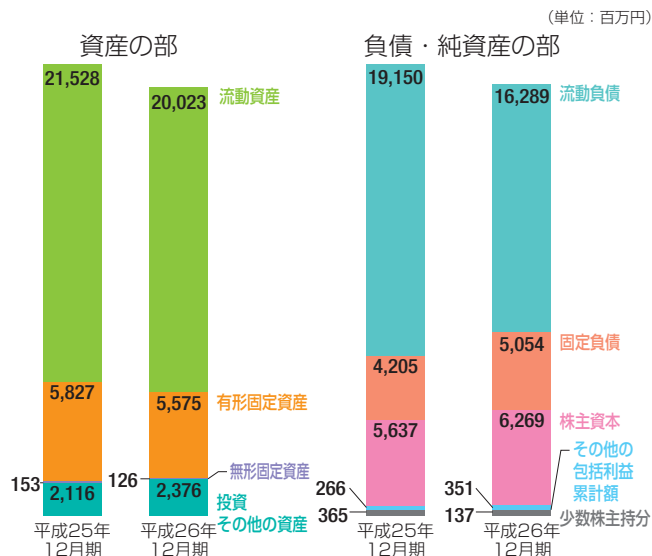
また、子会社における事業撤退による損失を計上しましたが、子会社株式の追加取得による負ののれん発生益があり、当期純利益は683百万円(前年同期は546百万円の当期純損失)となりました。

次期の見通し

売上高については、米穀事業の販売単価の下落による減少を見込んでおります。利益指標については、米穀事業の海外における収益の拡大が見込まれる一方、国内における販売競争の激化や国産米に取替く環境の変化等による収益の減少を織り込んでおります。

それらの状況を踏まえた上で、平成27年12月期連結会計年度の業績見通しにつきましては、売上高は103,800百万円、営業利益は830百万円、当期純利益は500百万円を見込んでおります。

財政状態



総資産

現金及び預金の増加額393百万円、前渡金の増加額754百万円、受取手形及び売掛金の減少額1,407百万円、たな卸資産の減少額1,008百万円等により、前期末から1,523百万円減少し28,102百万円となりました。

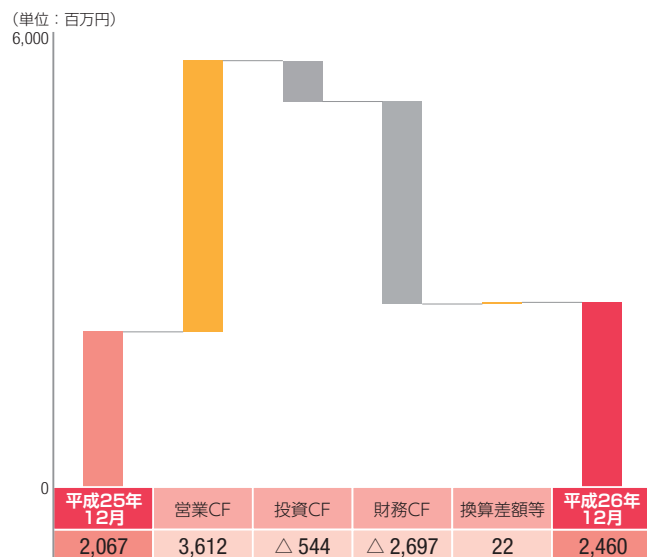
負債

長期借入金（一年内返済予定長期借入金を含む）の増加額1,074百万円等に対し、支払手形及び買掛金の減少額485百万円、短期借入金の減少額3,443百万円等により、前期末から2,012百万円減少し21,343百万円となりました。

純資産

少数株主持分の減少額227百万円等に対し、利益剰余金の増加額632百万円及びその他有価証券評価差額金の増加額46百万円等により、前期末から488百万円増加し6,758百万円となりました。

キャッシュ・フローの状態



営業活動によるキャッシュ・フロー

負のれん発生益161百万円、仕入債務の減少485百万円に対し、税金等調整前当期純利益1,118百万円、売上債権の減少1,422百万円、たな卸資産の減少1,053百万円があったこと等により、営業活動の結果獲得した資金は3,612百万円（前年同期は1,634百万円の使用）となりました。

投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出264百万円、子会社株式の取得による支出216百万円があったこと等により、投資活動の結果使用した資金は544百万円（前年同期比21.9%減）となりました。

財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入れによる収入3,309百万円に対し、短期借入金の減少3,508百万円、長期借入金の返済による支出2,260百万円、社債の償還による支出140百万円、配当金の支払50百万円があったこと等により、財務活動の結果使用した資金は2,697百万円（前年同期は1,877百万円の獲得）となりました。

株主様インフォメーション

株主優待

1,000株以上ご所有の株主の皆様には株主優待品を贈呈いたしております。

6月末現在の株主様

- 1,000株以上2,000株未満 ▶ 2,000円相当の米穀製品
- 2,000株以上 ▶ 4,000円相当の米穀製品等※

12月末現在の株主様

- 1,000株以上 ▶ 3,000円相当の米穀製品

※うち2,000円相当は「切り餅」を12月中頃までに贈呈いたします。

ポイント1

年2回の贈呈

12月末現在の株主の皆様

▶ 3月頃発送

6月末現在の株主の皆様

▶ 9月頃発送

ポイント2

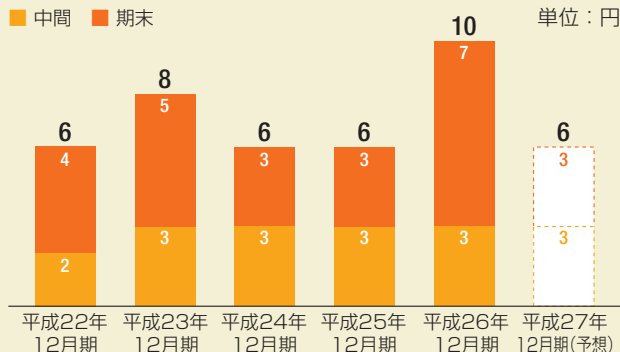
当社米穀製品をお届けします。



配当金

当社は、株主様に対する利益還元を重視する一方、安定的な経営基盤確保のため、内部留保のより一層の充実を目指し、安定的な配当の継続を業績に応じて維持することを基本方針としております。

■ 1株当たり配当金の推移



IRカレンダー

当社決算発表等に関する上半期の予定を掲載しております。



株主アンケートにご協力下さい

株主の皆様のお声から今後の活動に反映させていただくため、アンケートを実施しております。同封のアンケートハガキにご記入の上、最寄のポストへご投函下さい。何卒ご協力をお願い申し上げます。



会社概要 (平成26年12月31日現在)

● 会社概要

商号 木徳神糧株式会社

事業内容 米穀事業、飼料事業、海外事業、コメ加工食品事業

本店所在地 〒104-0061 東京都中央区銀座7-2-22

本社所在地 〒132-0011 東京都江戸川区瑞江4-44-17
TEL: 03-5636-1501(代表)
FAX: 03-5636-1601

資本金 5億2,950万円

従業員数 357名

ホームページ <http://www.kitoku-shinryo.co.jp>

株式情報

● 株式の状況

- (1) 発行可能株式総数 30,000,000株
(2) 発行済株式の総数 8,530,000株
(3) 株主総数 1,722名
(4) 大株主

株主名	所有株式数	持株比率
木村 謙三	405千株	4.77%
木村 良	353	4.16
濱田精麦株式会社	350	4.12
株式会社三菱東京UFJ銀行	300	3.53
株式会社神明ホールディング	247	2.91
木村 友二郎	243	2.86
稲垣 辰彌	230	2.71
水野 正夫	227	2.67
木徳神糧従業員持株会	196	2.32
株式会社三井住友銀行	186	2.19
農林中央金庫	186	2.19

- (注) 1. 所有株式数は、千株未満を切り捨てて表示しております。
2. 持株比率は、自己株式(48,010株)を控除して計算し、小数点第3位を切り捨てて表示しております。

● 役員 (平成27年3月27日)

取締役・監査役

取締役会長 木村 良
代表取締役社長 平山 惇
取締役常務執行役員 三澤 正博
取締役常務執行役員 伊豫田直記
取締役常務執行役員 天川 誠
取締役執行役員 鎌田 慶彦
取締役執行役員 竹内 伸夫
取締役執行役員 稲垣 英樹
取締役執行役員 石田 俊幸
取締役執行役員 竹田 光男
常勤監査役 高橋 健治
監査役(社外) 杉野 翔子
監査役(社外) 福田 眞也

執行役員

執行役員 大橋 正博
執行役員 岩苔 永人
執行役員 家辺 義之

(注)執行役員については平成27年4月1日に就任となります。

株主メモ

事業年度 1月1日から12月31日まで

定時株主総会 毎年3月に開催いたします。

基準日 定時株主総会については12月31日、その他必要があるときはあらかじめ公告する一定の日

配当金受領株主確定日 12月31日及び中間配当金の支払を行うときは6月30日

株主名簿管理人 三菱UFJ信託銀行株式会社

特別口座の口座管理機関 三菱UFJ信託銀行株式会社

同連絡先 三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
TEL 0120-232-711 (通話料無料)

上場証券取引所 株式会社東京証券取引所

公告方法 日本経済新聞

イベント情報

当社はコメビジネスを通して様々なイベントに参加し、国内のみならず、海外を含め、世界中の消費者の健康で楽しいライフスタイルの実現をサポートしています。

アジア太平洋地域のマーケットや飲食店の魅力を一度に味わえる「アジア太平洋フェスティバル福岡2014」が2014年10月11日からの3日間で開催されました。

当社は11日、12日に出店。福岡(九州方面)では初の出店でしたが、ブースでは香り米(5kg、450g、米飯タイプ)、もち米(5kg、米飯タイプ)を販売し、当社の香り米を使用している外食店の協力もあり福岡でのタイ香り米の認知度が高まり、市場拡大のきっかけとなりました。



旬の食材を使ったレシピ

イタリアン焼き春巻き

エスニック素材と洋風素材を上手に取り合わせて、一味変わったおつまみに。



材料(2人分)

アボカド	1個
パプリカ(赤)	1個
ピザ用チーズ	40g
バジル(生葉)	8枚
ライスペーパー	4枚
サラダ菜	8枚
オリーブ油	大さじ1
塩・こしょう	少々
A	
米油	大さじ2
白ワインビネガー or 酢	大さじ2
砂糖	小さじ1/2
すりおろしニンニク	少々
塩・こしょう	各少々
バジル(乾燥)	少々

- 1 アボカドは、種に沿って縦に包丁をぐるりと入れて、手で回しながら切り離し、種と皮を取り薄切りにする。パプリカ(赤)は、ヘタと種を取り細切りにする。
- 2 広げたサラダ菜に1を並べ、ピザ用チーズとバジルをのせ細長く包む。
- 3 ライスペーパーは、ぬるま湯で戻し半分に切る。2を芯にして春巻きのように包む。
- 4 フライパンにオリーブ油を熱し、3をパリッとするまで焼いて皿に盛る。
- 5 Aの材料でイタリアンドレッシングを作り、4のフライパンに加えて煮つめ、春巻にかける。

● 調理時間20分 ● カロリー：429kcal/1人分

表紙の
答え

◎ 約20億人

お米・小麦・トウモロコシなど世界の主な穀物のうちお米を主食としているのは約20億人、人類の約40%がお米を主食にしています。

 木徳神糧株式会社

〒132-0011 東京都江戸川区瑞江4-44-17
TEL：03-5636-1501(代表)
FAX：03-5636-1601

